

日 時：令和元年 5 月 24 日（木）18 時 30 分 ～19 時 45 分

場 所：向陽多目的研修集会施設

対象地区：向陽

参加人数：12 名

■要望、質疑応答

内 容
<p>○暮らしの便利帳の更新について</p> <p>（市民から）</p> <p>暮らしの便利帳について、以前の発行から 3 年ほど経ち古い情報もあるため、更新して配布してもらいたい。</p> <p>（市から）</p> <ul style="list-style-type: none">・暮らしの便利帳とは、地域情報や行政情報などが掲載された冊子のことで、平成 25 年に初版を発行し、平成 28 年に更新した。大阪の企業が作成しており、事業者の広告掲載料により賄われるため市の負担はない。・現在、更新作業を進めていて、完成は 9 月、配布は 10 月の予定である。
<p>○果樹経営支援対策事業について</p> <p>（市民から）</p> <p>この事業を活用したいが高齢なことや後継者がいないことから補助対象から外れている。特に、新植に伴う客土助成を利用したいと思っているが、もう少し対象範囲や補助内容を充実させてもらえないか。</p> <p>（市から）</p> <ul style="list-style-type: none">・果樹支援としては、ふるさと納税の返礼品として人気の高いりんごの産地維持のために行っている、りんごのふるさと応援事業というものもある。認定農業者でなくても補助対象となるよう要件を緩和した。・田を畑（樹園地）に変える場合には、水田樹園地畑転換整備事業というものもある。国の補助事業に市が 1/4 の嵩上げをしている。ただし、客土については必ずしも水田に必要なのではなく、暗きよ等の導入を含め、排水状況を考慮し判断すべきだと思う。また、補助対象者や面積要件等については、一度農林課に相談していただきたい。
<p>○集会施設駐車場の舗装について</p> <p>（市民から）</p> <p>集会施設駐車場を舗装する場合の市と町会の費用負担について教えてもらいたい。</p> <p>（市から）</p>

・確認して後日回答する。

○道路脇ポールの設置について

(市民から)

集会施設前の原田地区に向かう市道では、冬になると道路脇の雪に突っ込む車が多いので、ポールを立てるなどして対策をとってほしい。道路の拡張ができれば一番よい。

(市から)

・町会長から話があり回答させてもらったが、近々、ポール 17 本を設置する予定である。
・過去に、原田町会から幅員の狭い区間を拡幅してほしいという要望があり、町会に田の所有者に了解をとってもらったうえで一部拡幅を実施した。現段階で、その延長工事を
する計画はない。

○回覧板について

(市民から)

向陽地区で使用している回覧板がかなり古いものなので更新できないか。

(市から)

・総務課に更新用の回覧板があるので、必要であればご相談いただきたい。

○スクールカウンセラーの配置について

(市民から)

先日、新聞で、県知事選の立候補者が公約で県内の公立小中学校全校にスクールカウンセラーを設置するという記事を目にした。平川市には現在スクールカウンセラーは配置されているのか。また、市の費用負担はあるのか。

(市から)

・平川市ではだいぶ前から配置している。昨年度は 8 小学校に配置しており、今年度は全小中学校に配置する予定である。カウンセラー 4 名が、1 日 3 時間単位で各学校をまわってカウンセリングにあたる。児童や生徒に認知してもらうとともに、利用しやすい環境を整えたいと思う。
・全額県の費用であり、市の負担はない。

○ふるさと納税の実績と使途について

(市民から)

東京に住んでいる親族から、昨年、平川市にふるさと納税をして返礼品としてトマトをもらったという話を聞いた。平川市にはどれくらいの寄附があり、どのように使われているのか。

(市から)

- ・平成 30 年度は約 4 億 3,700 万円の寄附をいただいている。米、野菜などを返礼品として用意しているが一番人気はりんごである。農協や個人農家に協力いただいて商品を提供してもらっている。
- ・商品の買い取り代、送料、仲介サイトへの手数料等が費用としてかかるため、残るのは約 4 割程度である。これらのお金を納税者が希望する使い道にあわせて利用している。農業や子育て支援を応援したいという声が大半を占めている。
- ・6 月から国の方針により経費を 5 割以内に抑えなければいけなくなるが、市の貴重な財源となっているうえ、農産物の宣伝にもなっているので工夫しながら活用していきたい。

○平川市への移住実績について

(市民から)

平川市の移住者支援制度を利用して、市へ移住してきた方はどれくらいいるのか。

(市から)

- ・市では、平成 25 年度から子育て世代に対して住宅支援をしているが、この制度を利用して転入してきた方が、113 世帯、351 人である。対象にならない世帯が、家を建てて移住してくるケースも多い。
- ・総務省の統計によると、平成 30 年に平川市に転入してきた人は平川市から転出する人に比べて 61 人多いということであった。ただし、生まれてくる人より亡くなる方が多いため市全体としては人口が減っている。

○10 年後の平川市の人口について

(市民から)

10 年後には平川市の人口はどれくらいになる予想なのか。

(市から)

- ・平成 27 年に制定した総合戦略では、約 20 年後の 2040 年の人口が 22,631 人になるという推計であった。出来るだけ減少幅をおさえて、2 万 5~6 千人を下回らないよう努力していきたい。
- ・平川市は近隣市町村と比べると家を建てて転入してくる人が多い。平賀駅裏の宅地開発も予定している。

○吹上地区を通る道路について

(市民から)

吹上地区を通る県道大鰐浪岡線は狭いにも関わらず、大型トラックが次々と入ってくる。危険なので交通規制をかけられないものか。

(市から)

- ・以前にもそういった意見があり、公安委員会と協議したことがある。しかし、結論としては周囲の交通形態から規制することはできないとのことであった。

(市民から)

子供達が危険だし、大型車が交差できなくて渋滞することもある。なぜ、規制できないのか。

(市から)

- ・県道吹上金屋黒石線の沖館方向が規制されていると思うが、そのこともあってこの路線については規制できないかと思われる。

(市民から)

バイパスを作る計画はどうなったのか。

(市から)

- ・当初は現道拡幅してほしいということで県へ要望したが、多くの買収が伴うことから、なかなか事業化することができなかった。その後、バイパス案も出たがこれも同様に事業が進まなかった。そして、現在、交通安全対策として歩道を整備するという方向で動いているが、これも地域住民の賛同が得られないため事業が止まっている。すべての地権者の了承が得られればいいのだが、それが難しいためこのような状況となっている。
- ・事業休止前に行ったアンケート調査の結果に基づいて、了解が得られていない方々に対しては、今後も交渉を続けて、事業再開に向けて取り組んでいきたいと思う。

○企業誘致について

(市民から)

平川市では企業誘致をどのように進めているのか。

(市から)

- ・黒石市のロジスティック戦略は平川市にも話があったが、農地に建物を建てる許可が下りず断念した。平川二期土地計画の事業もあり難しい。ただし、約 500 ヘクタールの緩和区域を設けて、住宅は建てられるようにしている。
- ・企業誘致には、工業団地を作る方法もあるが、必ず全てが埋まるわけはでないのが難しい。市内によい企業ができて雇用の創出ができればよいのだが。
- ・近年平川市にきた企業は、株式会社津軽バイオマスエナジーである。